

学部・学科ごとの理念・ポリシー

文学部

文学部の教育の理念・目標

文学部は、人間の文化的・社会的営為に関する人類の叡智を継承し、ことばと文学、歴史と文化遺産、和食文化にかかわる専門領域を深く教育・研究するとともに、その成果を広く社会に還元します。さらに現代社会・地域社会が提起する諸課題にこたえるために、知の拠点として、つねに新たな教育・研究領域を開拓することを目指し、次のような人材の育成を目標とします。

1. 人文学のたゆまぬ研究と教育を通じて、幅広い教養を備えるとともに、豊かな人間性と高度な専門性を身に付けた人材を育成します。
2. 幅広い教養と専門知識を融合させ、総合的な視野や多様な価値観を養うことにより、地域文化・地域課題をにない、また国際化社会にも貢献しうる人材を育成します。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

文学部では、次の能力や学識を身に付けたと認められる学生に対し、学士の学位を授与します。

1. 人間の多様な文化や価値観に対する理解や豊かな教養や社会人としての汎用的技能を備えている。
2. 国際的視点からの京都文化の特殊性や普遍性に対する理解力を備えている。
3. 専門分野における知識や研究方法を活用して課題を解決する能力を備えている。
4. 人類の叡智の継承者としての自覚を持ち、市民としての社会的責任や倫理観、実践的能力を備えている。
5. 日本語や外国語を用いて自己の見解を論理的に分かりやすく示す能力を備えている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

文学部では、次の方針に基づきカリキュラムを編成します。

1. 教養教育科目（教養基礎科目〔導入科目、健康教育科目、外国語科目〕、キャリア育成科目、教養総合科目）の幅広い履修により、学士課程（4年間）を通じた多様な教養や社会人としての汎用的技能を身につける。
2. 「国際京都学プログラム」の履修を必修化して、国際的な視野から京都に関するさまざまな文化的現象について考察する。
3. 専門教育科目の「概論」「研究」などの講義科目の履修により、1年生から段階的・体系的に専門的知識を修得し、さらに少人数による双方向型の「演習」科目の履修により、自らの課題意識に基づく主体的な学問研究・問題解決への方法を学ぶ。
4. 研究倫理や、市民としての自覚に基づく実践能力を涵養する。
5. 教養や専門教育科目で修得した語学力や表現力、知識、研究方法・態度等に基づき、最終年度には学士課程の集大成として卒業論文を作成する。
6. 履修科目の単位認定にあたっては、科目の性質に応じて筆記試験、レポート試験、平常点評価などを適切に組み合わせて評価し、その方法等は開講に際して明示する。